

桂川だより

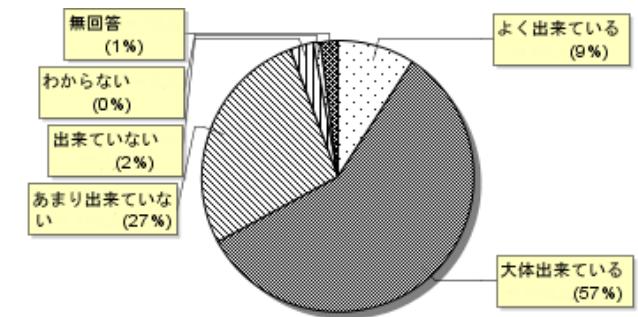
25年度
特別号

京都市立桂川小学校
校長 奥田 直孝



自分の思いを伝えることができること

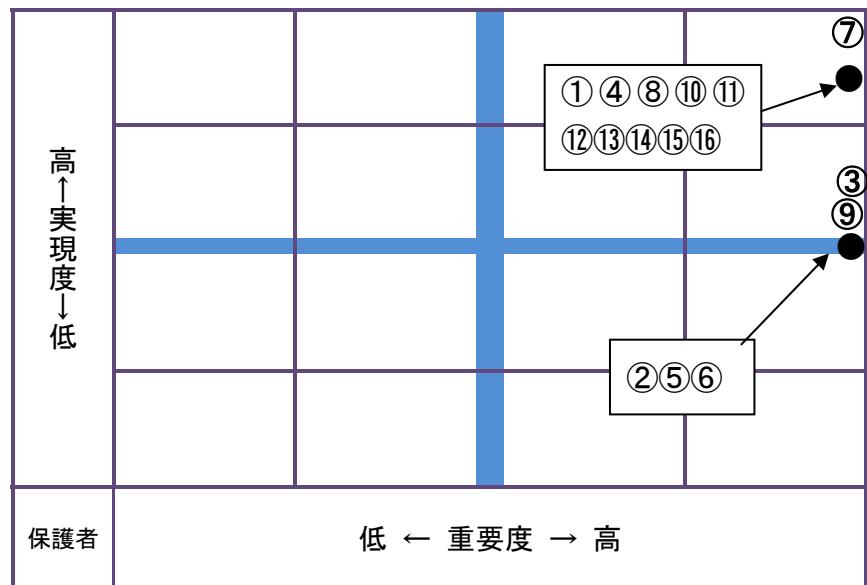
自分の思いを伝えることができると回答した児童は7割、保護者の方の回答は7割を切っていました。社会生活を営むにあたり、学校や家庭で「生きる力」を身に付けるためには、自分の思いや考えを相手に伝える力を身につけることが大切です。困り事・悩み事も一人で抱え込まずに担任や家族、友達など身近な人に話すことで解決につながるものだと思います。今一度、ご家庭においても、親子が会話する時間が十分か見直してみてください。



前期学校評価アンケート集計結果

学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。本校では、京都市の「学校評価支援システム」を活用して学校評価を行い、アンケート票の作成、集計、結果の処理について、システムを活用してデータを出し、客観的な評価となるよう努めています。学校評価アンケートは、それぞれの項目について、重要度と実現度についてお答えをいただきました。その中で重要性が高いと認められているにもかかわらず、実現できていないものは、改善の必要度が高いということになります。逆に重要度が高く、実現度も高い評価を受けた項目は、学校としての強みであり、長所であると受けとめられます。

下の表はそれをまとめたものです。右へ行くほど重要度が高くなり、上へ行くほど実現度が高くなります。



- ①子どもに基礎的な学力が身につくこと ②自分から進んで学習する子に育つこと
- ③自分の思いを伝えることができること ④教師がわかりやすい授業を工夫すること
- ⑤家庭学習に進んで取り組む習慣がつくこと ⑥読書の習慣が身についていること
- ⑦楽しく学校に通っていること ⑧物事の良し悪しを判断して行動できること
- ⑨元気よくあいさつができること ⑩きまりや約束を守って生活すること
- ⑪思いやりの心が育つこと ⑫基本的生活習慣が身につくこと
- ⑬学校の考えが保護者に伝わること ⑭学校HPやお便りで学校の様子がわかるること
- ⑮担任や学校に相談できること ⑯学校が開かれた教育活動を進めていること

学校評価の結果から見えてくる課題

本校の教育目標「夢をもち 自ら考え 正しく判断しすすんで行動できる子ども」を達成するために、教職員が一丸となって取り組んできています。また、保護者・地域の方にも教育方針をご理解、ご協力いただき、多くの子どもたちが楽しく学校生活をおくることができたと思います。しかし、アンケート結果からいくつかの課題も見え、学校として今、何についてどう取り組んでいくのか考えて教育活動に当たらなくてはならないと考えます。

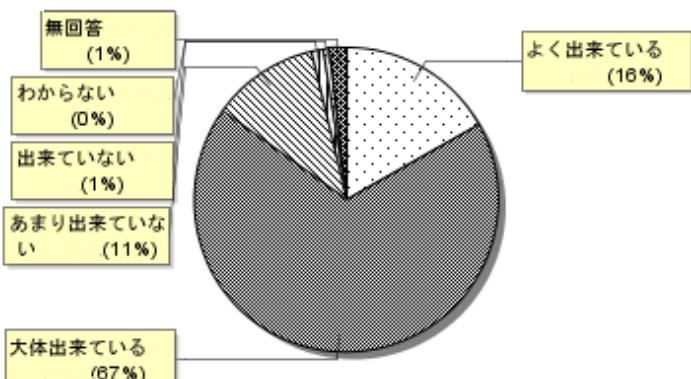
例えば「あいさつをしっかりする」「相手の目を見て聞く」など当たり前のことができていない子どもに対して「～しよう」といった声かけだけでは効果は見られません。なぜ、そのことをしなければならないのか、どうして大切なことを分かりやすく話し、望ましい姿の指導をする必要を感じます。

現在、社会のグローバル化に対応した教育が求められ外国語活動が取り入れされました。自国ののみならず、英語を使ったコミュニケーション能力を高めることを重視しているのですが、基本姿勢は「自ら考え、正しく判断して行動すること、表現すること」だと思います。社会生活を営む上で、人としてあるべき姿（社会のルールを守る、モラルを身につけること）を確立することは大変重要です。そのためにも自分の姿が相手の目にどう映っているのか客観的に受け止める感覚を培うことも大切だと考えます。子どもだから・・・ではなく、今の時期こそ毅然とした態度で大人が気付かせていかなければならぬと思います。

ご家庭におかれましても、社会のルール、マナー、モラルについてお話をされる機会をぜひもってください。

物事の善し悪しを判断して行動できること

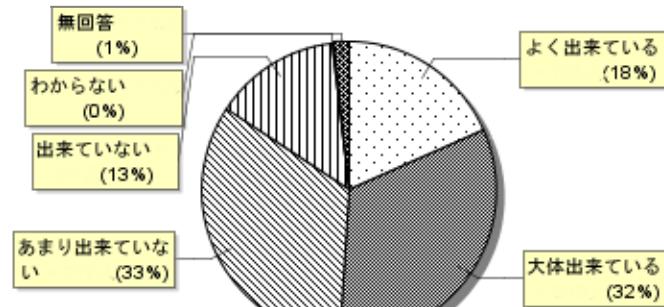
児童や保護者の方の8割が「できている」との回答でした。道徳の授業を始め、いろいろな場で「正しく判断して行動すること」についての指導を進めてきた結果だと受け止めます。しかし、その結果について少なからず疑問も残り、「ほぼできている」と感じているものの、学校や家庭における生活の様子を客観的に見ていくと、新たな課題もでてくるのではないかと思います。「間違ったことはしてはいけない」「人に迷惑をかけていない」＝「正しく判断して行動する」ではなく、「勇気をもって正しいことをつらぬく」「人に喜んでもらえる行いをする」といった、より高い目標をもった子どもを育てていきたいと考えます。



読書の習慣が身についていること

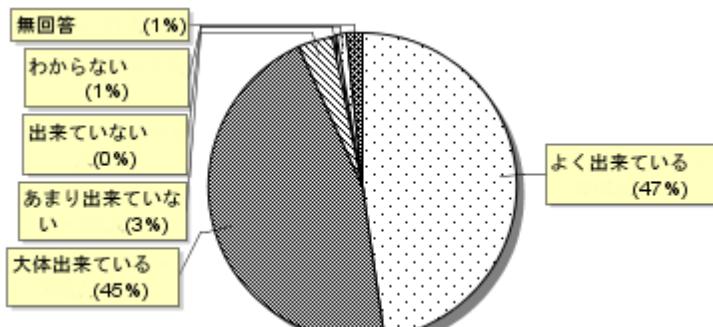
保護者の方は読書の大切さを感じておられます。本をたくさん読んでいると回答した児童はおよそ7割、保護者の回答は5割でした。学校では継続して読書の指導をしており、朝学習の時間は静かに本を読む児童に育ってきています。ただ、本の内容については学年の発達に応じて見直す必要があると思います。

これまでの生活アンケートによる「テレビを見たりする時間」が2時間以上と回答した児童が低学年では3割、中学年では5割、高学年では7割にも及び、しかも、どの学年も時間を決めて見るよりも自由に見てている児童が6割という結果から、家庭での学習や読書の時間の位置づけが気になるところです。読書は「自問自答の世界」「知識の蓄積」であると言われています。ぜひ、読書する習慣を身に付けていってほしいと思います。



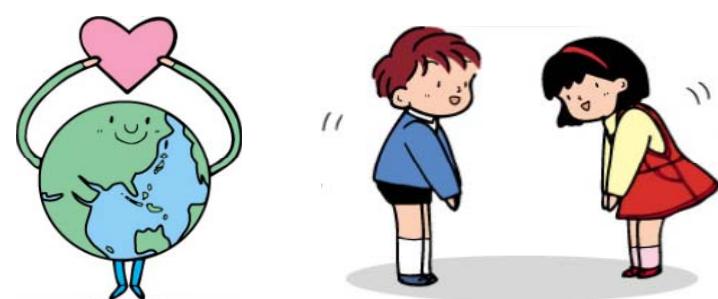
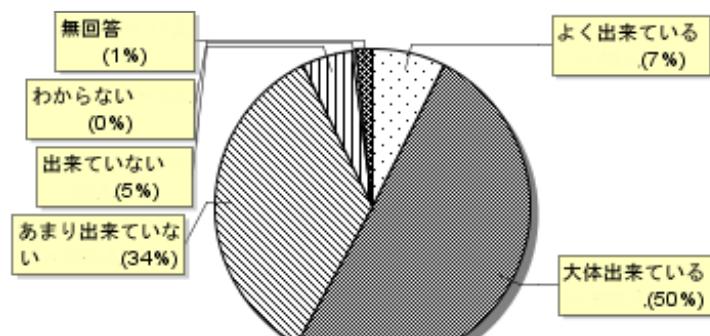
楽しく学校に通っていること

楽しく通っていると回答した児童は8割、保護者の方からの回答は9割を上回っていました。学校が楽しいことが何よりも大事なことで、とても嬉しいことだと思います。「学校が楽しいと感じるのはどういうところ?」と聞くと、共通して返ってくることは「友達と遊んだり話したりすること!」です。学校としては、一人ひとりが大切にされる集団づくりを基盤に、互いの思いを受け止め、認め合う子どもの育成に全力をあげて取り組んでいきます。



自分から進んで学習する子に育つこと

大変重要な課題ではありますが、保護者の方は、まだ十分ではないと考えられています。基礎的な学力はほぼ身についてきたと思われる方が多いにも関わらず自分で計画的に学習し、よく考え、粘り強く取り組む力が育ちきっていないということだと受け止めています。児童へのアンケートでも5割の子どもが「進んで発表する」ことがあまりできていないと回答、4割の子どもが「分からぬ時には質問したり調べたりして解決している」ことがあまりできていないと回答しています。簡単なことや単純なものはとにかくかかるけれども、難しいことはあきらめがち、時間がかかりそうなものには面倒がる傾向があるのかもしれません。毎日の学習の中で、教科書、ノート、資料などに目を通し、もう一度、習ったことを振り返ることが大切だと考えます。そのためにも、テレビを見る、ゲームをする時間を決め、落ち着いて机に向かう時間を確保し、学習効果を高めていってほしいと思います。



自由記述欄より

教育環境について

トイレについてのご指摘をいただきました。洋式トイレの設置をはじめ、壁の塗り替えなどを実行してきました。使用するマナーについても指導し、トイレ清掃にも力を入れています。まだ、十分ではありませんが、引き続き改善に力を入れていきたいと考えています。教育委員会においても洋式トイレを増やす計画を進めています。

6年卒業遠足廃止について

「今年は実施されないということがとても残念です」というご意見をいただきました。子どもたちが楽しみにしていた行事ではありますが、昨今の社会状況を考慮し、保護者の経費負担削減を図るために、本校としましてもやむを得ず本年度から廃止することとしました。

何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

あいさつについて

「登下校時に『おはようございます』『お帰りなさい』と声をかけてもあいさつを返してくれる子どもが少ない、安全に気を付けて歩くよう注意しても聞かない子どもがいます」とのお声をいただきました。あいさつの大切さについては学校だよりでお知らせしていますが、粘り強く取り組んでいきたいと思っています。また、地域の人との関わりについても、注意されたことには素直な心で改めることができる子どもに育てていきたいと思います。

規範意識の大切さについて

「子どもの身勝手な行動に対しては、学校や親が毅然とした態度で厳しく指導やしつけをする必要がある」とのご指摘をいただきました。将来社会人として自立した生活を送っていくために、子どもの時期に規範意識を身に付けておくことがとても大切です。気になる行いであればその場で注意することが大切だと思います。ただし、一方的に頭ごなしに叱るのではなく、何が良くなかったのか、どうしてダメなのかを子どもに理解させることが大事だと思います。納得し、自分の行いに責任をもつ子どもに育てていきたいと思います。そのためにも、学校の様子をホームページやメール配信、学級だよりなどで積極的に発信し、保護者や地域の方に理解と協力を図っていきたいと考えます。